

国土審議会計画部会
自立地域社会専門委員会
提出資料

(11月15日提出資料 抜粋)

松田宏人
日本政策投資銀行

平成18年2月

リレーションシップバンキングの概要

「リレーションシップバンキング」とは...

長期継続する関係の中から、借り手企業の経営者の資質や事業の将来性等についての情報を得て、融資を実行するビジネスモデル

「トランザクションバンキング」個々の取引ごとに採算性を重視する銀行経営手法であり、貸出しに当たっては財務諸表や客観的に算出されるクレジットスコアといった定量的な指標を重視する。リレーションシップバンキングの反対概念。

リレーションシップバンキングとトランザクションバンキングの比較

	リレーションシップバンキング	トランザクションバンキング
重視するリスク要因	マネージメントリスク(定性的)	ビジネスリスク(定量的)
メリット	・定量情報では図りきれない無形の競争力を持つ顧客層を開拓 ・高収益性、収益の長期安定性	・低コスト化による価格競争力 ・信用リスク管理の高度化
コスト(主な費用)	高コスト(営業担当者人件費)	低コスト(機械化の初期投資)
収益期間	長期安定的	短期的、市場環境等の影響大
取引先との関係	単独取引(独占的)	複数行取引(競争的)
適性のある金融機関	小規模かつ地域限定的金融機関	大規模(地域横断的)金融機関
問題点	・「ホールドアップ」問題 *1 ・「ソフトバジェット」問題 *2 ・「ソフト情報」の非伝達性 *3	・潜在的収益機会の喪失 ・商品の画一化による競争激化と価格低下圧力

*1 一方が他方に依存する取引関係において、依存される側の当事者が優越的地位を利用して自己に有利な条件を強要すること。

*2 業績不振に陥った企業との取引において、金融機関が法的整理等による損失の表面化を恐れ、回収に重大な疑義があるにもかかわらず融資を継続すること。

*3 ソフト情報には、取引先の経営情報のほか、地域特性、取引先やコミュニティにおける評判などが含まれるため、定量情報のように伝達・還元が困難であること。

対比：日本と米国の地域金融

- 米国の地域金融 -

■ 間接金融が中心

- ・ 国レベルの企業は直接金融、州レベル以下は間接金融

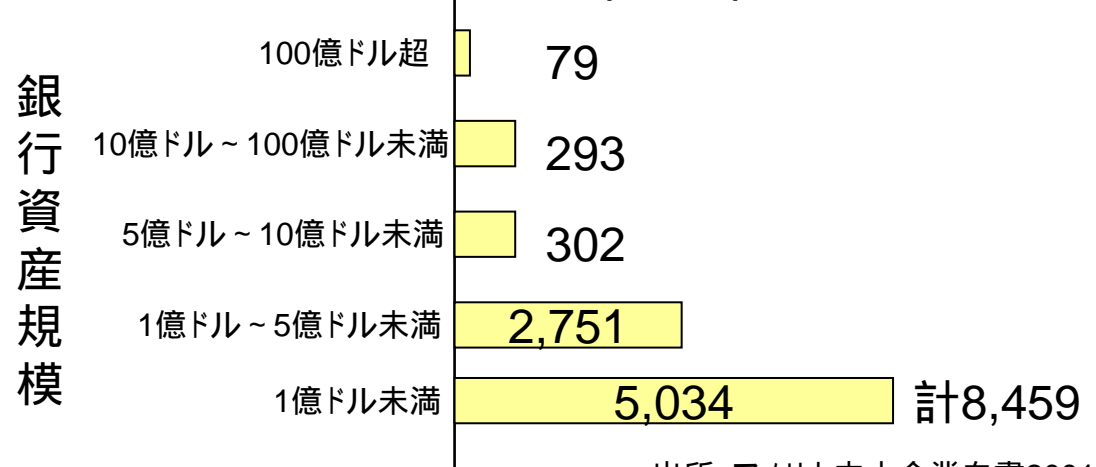
■ 小規模な地域金融機関が多数存在 (右図)

- ・ 地域銀行 (極めて小規模)
- ・ ノンバンク
- ・ CDFI (公益目的の新興勢力)

■ 地域密着型融資の普及

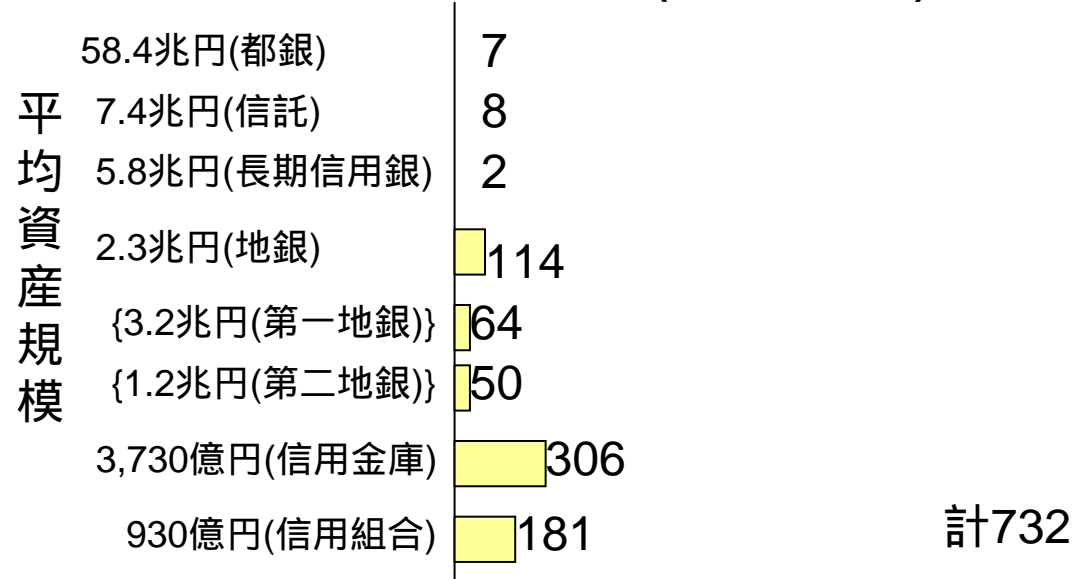
- ・ 地域密着の金融機関が豊富な地域情報を元に審査
- ・ 担保は、簿価ではなく、収益還元法で査定した事業価格で評価 建物担保の普及
- ・ 経営指導によりデフォルトリスクを軽減

米国銀行資産規模別銀行数(2000年)



出所：アメリカ中小企業白書2001

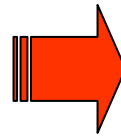
日本の業態別平均資産規模(2004年3月末)



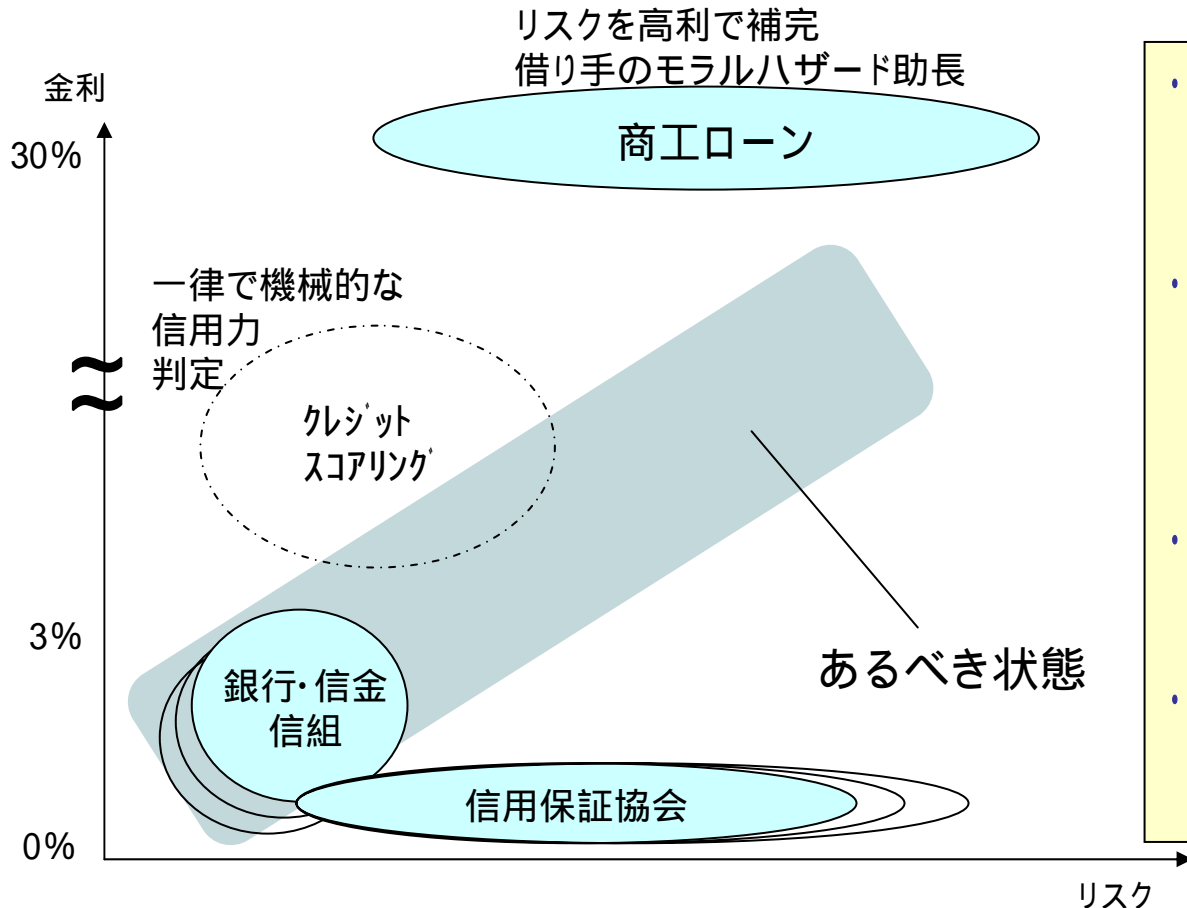
出所：全銀協HP, 信金中金HP, 全国信用組合中央協会HP

リスクとリターンの関係

地方圏における低い預貸率
(資金は潤沢)

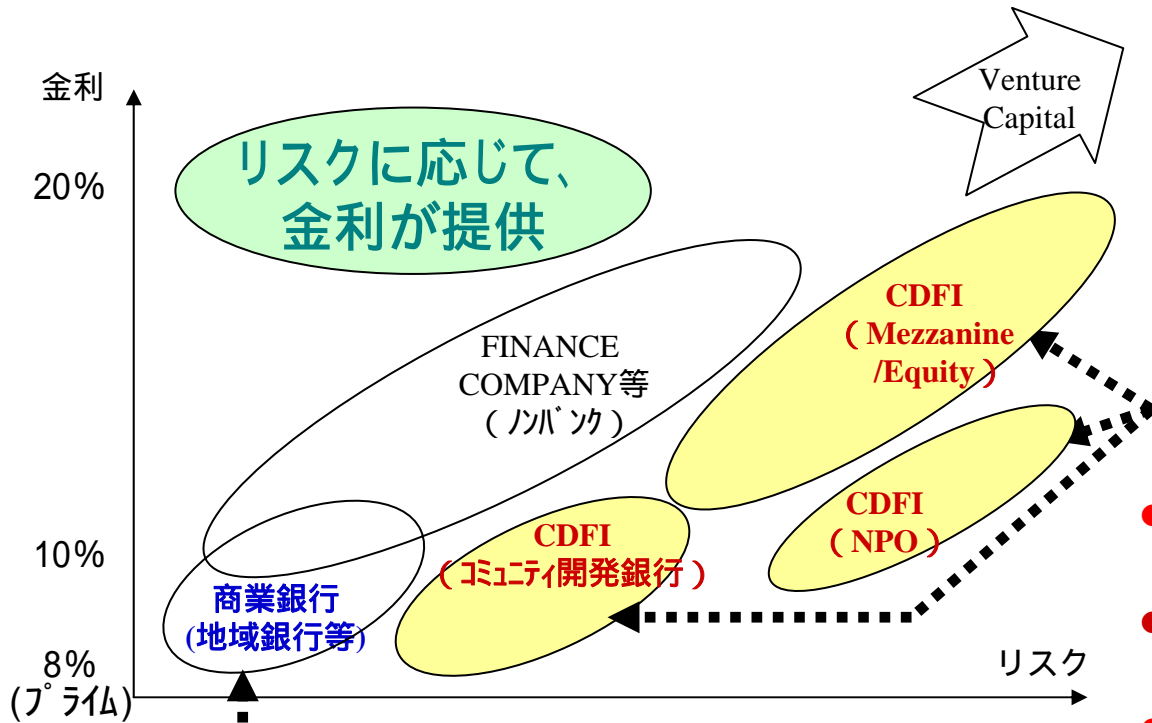


不足しているのはリスク負担？
(資金は国債等安全資産へ)



- ・ 金融市場が不完全なために、極めて安いか、法外に高いか、どちらかの金利領域しかない
- ・ 金利が低すぎるため、普通の金融機関はリスクがとれない
かえって地域企業にお金
が流れなくなっている
- ・ そのため、地域企業は企業間
信用に依存する割合が高い
- ・ 金融機関による企業の経営技
術向上に向けた取り組みは行
われにくい

米国の地域金融市場



コミュニティ開発金融機関 (CDFIs)

- Community Development Financial Institutionsの略
- コミュニティ振興という公益目的を持つ 銀行/NPO
- 資金規模数億円 ~ / 400機関超
- 25年前に第1号が登場、過去10年に全米で急速に成長
- 経営技術指導 (Technical Assistance) を実施
費用は金利/指導料/公費補助 で賄っている

地域銀行 (Community Banks)

- 多くは日本の信用組合よりも小規模で、特定地域に密着
- 独立自営の経営 / 当局は、税制、規制・監督面で優遇
- 経営技術指導 (Technical Assistance) を実施
費用は金利/指導料/公費補助で賄っている

市場の失敗を生む信用情報の不足(情報の非対称性)

様々な要因から資金需要が低迷しているのは事実だが...

